

腎臓・透析

当該診療科の特長	腎炎、ネフローゼ症候群、膠原病等の治療を腎臓内科医だけでなく、総合内科として多角的に対応している。腎生検により診断した後、腎臓を治療するだけでなく、全身疾患として診療している。最近増加中の糖尿病や循環器疾患、脳血管疾患にも専門医が綿密に連携を取り診療しています。腎不全は保存期からクリニカルパスを用いた教育入院の上、インフォームド・コンセントに基づいた透析療法の選択を行っている。当院は透析に関しては全国有数の腹膜透析施設であります、それだけではなく血液透析施設としても透析導入の準備や教育、透析患者の合併症に対する入院診療について地域の中核病院としての役割を果たしている。	
プログラムの特長	研修が出来る病院で、維持透析をある程度管理している総合病院は稀な方である。対診、併診が多い入院患者に対する研修で、前期のうちは主疾患を診ながら透析の管理をしていくことも可能。心筋梗塞が起こればその主治医を、吐血が起こればその主治医をしながら、透析管理をし、内科医として大きな総合力をつけいくことは大事なことだと考えている。血液浄化療法も今後発展していく分野だが、頼まれたとおりに機械を指示するのではなく、その分野の専門の医師とタイアップして担当して治療していくことは大変興味深い研修になると考える。ICUでのCHDFやエンドトキシン吸着も腎臓内科医の活躍の場となる。腎生検やネフローゼ治療に関する紹介も多く、腎臓学は全身管理につきると考えている。また内科全般についても、個別に内科認定医獲得を目指して、症例を重ねることは、当院の内科の構造上、容易といえる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の全身管理が行えるように総合力を身につける。 2) 他科のコンサルテーションにここに対応できるよう水分電解質管理、透析診療が出来る。 3) 腎臓疾患についてガイドラインに基づいた診断、治療が行える。 4) 腎生検およびその後の免疫抑制療法、急性腎不全の全身管理、慢性腎不全の教育、導入、血液透析腹膜透析の維持透析管理、およびバスキュラーアクセスの確保、内シャント設置、腹膜透析関連手術について体得する。 	
研修期間	3年間	
取得可能な資格等	学会名	取得可能な資格
	日本内科学会	日本内科学会専門医
	日本血液学会	日本血液学会専門医
指導体制	3名	
その他	大学医局への所属、未所属へ関係なく全国より専攻医を受け入れている。	